

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		豊橋あゆみ学園		回収数 1 2		公表日		令和8年1月15日	
		チェック項目		はい	いいえ	工夫している点		課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。		7	5	クラスに寄っては狭いと感じる時があり、ドアを開けて対応している。 人数が多い時は、プレイルームを利用したり、給食時はテーブルの配置を工夫したりしている。 プレイルームの2部屋がせまいが、人数の調整とプレイルームを使うことで工夫している。 人数が多いクラスが広い部屋を使っている。		人数に対して部屋のスペースが狭いことがある。 おおむね適切であるが、出席人数や、医療的ケアの必要のある児のスペースが必要なため、スペースが十分ではない日もある。 部屋によっては登園人数が多いと狭さを感じる。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。		9	3	以前より人数も増え、対応しやすくなっているが、休みが重なった時は、お互いに助け合い合同にしたりして対応し工夫している。 職員2名体制にはなっていますが、単独通園児に関しては職員配置に工夫が必要な時がある。		お休みなどで少なく感じる時がある。 1クラス2人担任で少し手厚くなったが、急な休みが出るとバタバタしていることはある。 職員の急な休みなどフォローに入れるフリーの職員がいると良い。 出席人数が多い、単独通園の園児がいる、職員が欠席するなど重なる配置は十分ではない。合同保育で対応はしているが、記録が増えていると思う。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。		9	3	施設リフォームされ、ずいぶん改善され過ごしやすい環境になっている。 雨で滑らない材質の床にしている。 マットを敷くなど、けがの予防には気をつけている。		構造化はされていないと思う。環境面に関しては工夫できるポイントもあるので、園全体で考えても良いと思う。 リハビリ棟に移動をする際、一度戸外に出なければならぬ。 人による、クラスによるではなく、全体で視覚支援を入れていく必要があると思う。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。		9	3	特にパートさんが一生涯掃除をしてくださっています。 毎日の掃除等で、清潔にされている。 毎日キルキンでの消毒と掃除を行っているが、不足している部分もあるかもしれない。 清掃は毎日行っている。		ボールプールをいつでも使用できるようになるといいと思う。 網戸、窓が閉まらなかつたりと、虫やゴキブリ等侵入しやすい環境になっているので心地よい空間になっているとは言えない。 譲ってもらう物が多く、物が多い。古くなったおもちゃと入れ替える、譲るために置く期間をきめるなど療育施設の環境としては改善した方が良い。 座位保持など大きいものがあるので、その収納場所は工夫していると思うが、スペースが足りていない。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。		12		情緒不安定で泣けてしまったりする時には、別室でご飯を食べたり、落ち着くまで他の部屋を利用することもできる。 医務室、相談室を使用している。		個別の部屋はありますが、荷物が多くなってきているので整理が必要だと思う。	
	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。		11	1	全職員で具体的に言うことが少ないが、朝礼終礼での報告をしっかりとっている。			
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。		12		要望等を確認して、園全体で共有する機会がある。 年に1回アンケートをとっている。 アンケート結果は会議で確認して周知している。			

業務改善	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	11	1	朝礼・終礼・毎月のチェックリストがある。 定期的に園長との面接があり、困ったことや意見等を伝える機会となっている。 アンケートや園長により面談をおこなっている。	意見を把握してくれる機会はあると思う。改善がされている場合とそうでない場合があると思う。
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	10	2	第三者の視点で、客観的に評価、意見をしてもらえると気がつかないことに気付くことができる。それを、改善していくことでより良い支援に繋がっていく。	今年度は第三者評価は受けていない。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	12		研修は、講義から実践まであり、知識だけでなく体験することでより良い資質向上に繋がっている。 研修後は会議で報告している。	施設内で毎月何らかの研修を設けてはいるが、それを十分にはいかされていないように感じる。
適切な支援の提		11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	12		
		12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	12		
		13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	12		作成にあたってはリハ職員も含めた検討会を実施している。
		14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	11	1	計画について、クラスの副担任が把握しているのだろうか。
		15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	11	1	発達評価表を用いているが、しっかり活用されている訳ではない。
		16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	12		
		17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	12		リハビリと保育で作成している。

供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	12		職員間で、話したり意見を求めながら工夫している。	遊び方に変化をもたせていくことが必要。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	12			
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	10	2	クラス内、クラス間で調整している。	互いに支援内容の共有をする機会は増えてきたと思う。ただ、たまに連携ができていないときもあるので、保育前の連携が徹底できると良い。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	10	2	終礼をするようになった。 終礼にて、支援の振り返りや、気になることなど話し合い、ノートに書くようになっている。その日に休んだ職員、パートなど、終礼に出席できなかった職員にも周知できるように工夫されている。	終礼としては情報共有ができていますが、その日の支援内容についての振り返りを毎日実施することはできていません。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	12			
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	12			
関	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	12		児発管が出席している。会議の前にクラス担任に状況を確認し、会議後に担任に報告し連携している。	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	12			
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	12		引き継ぎを行なっている。	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	12		教育委員会と連絡をしている。 見学や様子伺いの希望があれば対応している。	
	(28～30は、センターのみ回答)				会議等に出席して把握に努めている。	

係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	28	地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。	11	1		
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	12			専門家等からの助言を受ける機会は少ないと思う。ケース検討など実施できると良いと思う。
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	12			
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。				
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	12		法人内の保育園と交流を定期的に行っている。 交流保育。福祉まつり。 交流保育を定期的に行うようになった。	
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	12		必要に応じていつでも個別に話を伺っている。 会議や打ち合わせをしている。 家族通園なので相談しやすい。	
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	12		職員が研修に参加している。	情報提供は行っているが、ペアトレはできていない。
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	12		水泳療育の金額の見直し。	誤解を招く伝え方があり、保護者より要望があった。
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	12			
37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	12				

38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	12		家族通園なので込み入った相談は別室に移動するなど配慮が必要。	
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	12		長期休暇には、兄弟児同士一緒に過ごす場を提供している。 なかよしルーム。クラス分離。Q and A。	
40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	11	1	可能な限り早急に対応をしている。職員間でも共有し、原因を探り今後同じことを起こさないようにしている。	相談や申し入れに対し、対応するまでに関わる職員の数が多い。相談や申し入れがあった際に、窓口を決めた方が良いと思う。ちょっとした会話の中にも抱え込んだ悩みが溢れることがある。話を聞いた職員は適切に対応できる職員につなぐ必要がある。
41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	12		あゆみだよりを毎月発行している。	行事後など定期的に発信できると良い。
42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	12			意識の低い職員もいるため、今後徹底をしていく。 個人情報を扱う意識は職員によって差がある。お子さんの生活環境や発達の支援に必要な情報の収集という意識が持てると良い。
43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	12			
44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	12			
45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	12			定期的に訓練が必要。
46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	12		総合防災訓練。	
47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	12		アセスメントをとって把握。	

非常時等の対応	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	12		食事を提供する前にダブルチェックしている。アレルギープレートに記載されたものをメニュー表でチェックしてから配膳するようにしている。アレルギー児のお盆の色を変える、声を出して確認をするなど間違わないようにしている。給食提供でチェックをしている。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	12			
	50	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	12			
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	12		業務日誌に記載して周知している。定期的に情報を整理している。	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	12		職員全員が研修を受けている。	
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	12			説明が始めのみで十分とはいえない部分もある。